研究所規程

研究所組織

所員紹介

客員所員紹介

○茨城大学五浦美術文化研究所規程

（平成二七年三月三一日規程第一三四号）

改正　平成二二年四月一日制定第三八号
平成二三年九月二一日規則第六三号
平成二四年九月二〇日規則第六六号
平成二七年三月二六日規則第三一号
平成二七年三月三一日規則第五五号
平成二七年八月三一日規程第一七五号
平成二九年三月二八日規則第八号
平成三一年三月一三日規程第二三号
令和元年七月二日規則第八号
令和五年三月一六日規程第一九号
令和五年三月三一日規則第五号

（趣旨）

第一条　この規程は、国立大学法人茨城大学組織規則（平成一六年規則第一号）第二六条第二項の規定に基づき、茨城大学五浦美術文化研究所（以下「研究所」という。）に関し必要な事項を定める。

（目的）

第二条　研究所は、思想、歴史、美術批評、文学、文化財行政等に優れた業績を残した国際的知識人である岡倉天心に関する調査・研究及び諸領域に関する研究を広く行うとともに、天心の遺蹟・遺品の維持保存に努め、地域の歴史・文化と教育の向上に貢献する学術的調査・研究を行い、その成果を提供することにより、地域に寄与することを目的とする。

（事業）

第三条　研究所は、第二条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

（一）調査・研究及び出版

（二）施設の維持・保存及び各種資料の収集・保管

（三）教育・地域貢献に対する協力

（四）講演会、展示会等の開催

（五）その他目的達成に必要な事項

（職員）

第四条　研究所に、次の職員を置く。

（一）所長　一人

（二）副所長　一人

（三）所員　二〇人程度

二　前項のほか、事務職員を置くことができる。

（所長）

第五条　所長は、所務を統轄し研究所を代表する。

（副所長）

第五条の二　副所長は、所長を補佐するとともに、所長に事故があるときは、その職務を代行する。

二　副所長の任期は、二年以内とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された者の任期は、前任者の残任期間とする。

（所員）

第五条の三　所員は、所務に従事する。

二　所員の任期は、二年以内とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された者の任期は、前任者の残任期間とする。

（所長の任命）

第五条の四　所長の任命については、図書館長及び全学共同利用施設長の任命に関する取扱いについて（平成三一年一月二一日学長決定）に定める。

（副所長の任命）

第五条の五　副所長は、所長が指名し、学長が任命する。

（所員の任命）

第五条の六　所員は、茨城大学の教員のうちから第八条に定める運営委員会の

審議を経て、所長が任命する。

（事務職員）

第五条の七　事務職員は、建物の維持管理等の事務を処理する。

（顧問）

第六条　研究所が実施する調査・研究に対する協力を得るため、並びに施設の維持・保存及び各種資料の収集・保管についての必要な意見を聴くため、研究所に顧問若干人を置くことができる。

二　顧問は、第九条に定める運営委員会の審議を経て、所長が委嘱する。

三　顧問の任期は、所長がその都度定める。

（客員所員）

第七条　研究所に、所員との共同研究・地域社会との協力を促進するため、客員所員を若干人置くことができるものとし、他の研究機関等の研究者をもって充てる。

二　客員所員は、第一三条に定める所員会議の審議を経て、学長が委嘱する。

三　客員所員の任期は、二年以内とし、再任を妨げない。

（運営委員会）

第八条　本学に、研究所の施設・設備の整備計画その他重要事項を審議するため、茨城大学五浦美術文化研究所運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

（運営委員会の審議事項）

第九条　運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

（一）研究所の管理及び運営の基本方針等に関する事項

（二）所員の選出に関すること。

（三）研究所の予算に関すること。

（四）施設の維持・管理及び設備の整備計画に関すること。

（五）研究所の点検・評価に関すること。

（六）その他前各号に付随する重要事項

（運営委員会の組織）

第一〇条　運営委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

（一）所長

（二）副所長

（三）所員から選出された者　若干人

（四）研究・社会連携部長

（五）社会連携課長

二　前項第三号に掲げる委員は、所長の推薦に基づき、学長が任命する。

三　第一項第三号に掲げる委員の任期は、二年以内とし、再任を妨げない。ただし、欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（運営委員会の委員長）

第一一条　運営委員会に委員長を置き、所長をもって充てる。

（運営委員会の会議）

第一二条　委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

二　委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代行する。

三　運営委員会は、委員の三分の二以上の出席がなければ会議を開くことができない。

四　議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

五　委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

（所員会議）

第一三条　研究所に、所員会議を置く。

二　所員会議は、第四条第一項第一号から第三号までに掲げる者及び社会連携課長をもって組織する。

三　所員会議は、第二条に掲げる目的を達成するために必要な事項を審議す

る。

四　所員会議の議長は、所長をもって充てる。

五　議長は、所員会議を招集する。

六　議長に事故があるときは、副所長がその職務を代行する。

七　所員会議は、所員の三分の二以上の出席がなければ会議を開くことができない。

八　議事は、出席所員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

九　議長が必要と認めるときは、所員会議の構成員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

（各委員会）

第一四条　研究所に、第三条に規定する事業を行うため、必要に応じて委員会を置くことができる。

二　所員は、各委員会のいずれかに所属するものとする。

三　各委員会に関し必要な事項は、別に定める。

（事務等）

第一五条　研究所に関する事務は、研究・社会連携部社会連携課において処理する。

（雑則）

第一六条　この規程に定めるもののほか、研究所に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規則は、昭和三八年八月一日から施行する。

附　則

この規則の改正は、昭和三九年六月二五日から施行する。

附　則

この規則は、昭和四五年一二月二四日から施行する。

附　則

この規則は、昭和四七年六月一五日から施行する。

附　則

この規則は、昭和四九年六月二五日から施行する。

附　則

この規則は、平成八年四月一日から施行する。

附　則

この規則は、国立大学法人茨城大学設立に伴う茨城大学学内規則等の整備に関する規則（平成一六年規則第一九号）の施行の日（平成一六年六月二四日）から施行し、平成一六年四月一日から適用する。

附　則（平成二二年四月一日制定第三八号）

この規則は、国立大学法人茨城大学組織規則の改正及び事務組織改革に伴う学内規則等の整備に関する規則（平成二二年規則第三八号）の施行の日（平成二二年四月一日）から施行する。

附　則（平成二三年九月二一日規則第六三号）

一　この規則は、平成二三年九月二一日から施行する。ただし、改正後の第一〇条から第一六条までの規定は、平成二三年四月一日から適用する。

二　茨城大学五浦美術文化研究所運営委員会規則は、廃止する。

三　この規則施行の日の前日において、所長又は副所長であった者は、改正後の第五条第六項及び第七項の規定により選出されたものとみなし、その任期は、第六条第一項の規定にかかわらず、平成二四年三月三一日までとする。

四　この規則施行の日に所員である者は、第六条第一項の規定にかかわらず、改正前の任期を引き継ぐものとする。

附　則（平成二四年九月二〇日規則第六六号）

この規則は、平成二四年九月二〇日から施行する。

附　則（平成二七年三月二六日規則第三一号）

この規則は、国立大学法人茨城大学における学校教育法及び国立大学法人法等の一部改正に伴う学内規則等の整備に関する規則（平成二七年規則第三一号）の施行の日（平成二七年四月一日）から施行する。

附　則（平成二七年三月三一日規則第五五号）

この規程は、国立大学法人茨城大学における規則等の体系化及び名称変更に伴う学内規則等の整備に関する規則（平成二七年規則第五五号）の施行の日（平成二七年四月一日）から施行する。

附　則（平成二七年八月三一日規程第一七五号）

一　この規程は、平成二七年八月三一日から施行し、平成二七年四月一日から適用する。

二　この規程の施行の際現に客員所員である者の任期は、第八条第三項の規定にかかわらず、平成二八年三月三一日までとする。

附　則（平成二九年三月二八日規則第八号）

この規則は、平成二九年三月二八日から施行し、平成二八年四月一日から適用する。

附　則（平成三一年三月一三日規程第二三号）

この規程は、平成三一年三月一三日から施行し、平成三一年一月二一日から適用する。

附　則（令和元年七月二日規則第八号）

この規則は、令和元年七月二日から施行し、平成三一年四月一日から適用する。

附　則（令和五年三月一六日規程第一九号）

この規程は、令和五年四月一日から施行する。

附　則（令和五年三月三一日規則第五号）

この規則は、令和五年四月一日から施行する。

【研究所組織】

（令和五年四月一日現在　氏名は五十音順）

所長　片口　直樹

副所長　藤原　貞朗

［所員］

池庄司規江
猪俣　紀子
甲斐　教行
片口　直樹
神田　大吾
小林　英美
齋木　久美
佐々木　啓
佐藤　環
澁谷　浩一
清水恵美子
添田　仁
高橋　修
田中　裕
千葉真由美
西野由希子
藤原　貞朗
堀口　育男

［客員所員］

網谷　厚子
金子　一夫
小泉　晋弥
後藤　道雄
佐々木寛司
佐藤　道信
菅谷　務
鈴木　暎一
鶴間　和幸
中村　愿
深澤　安博
藤本　陽子
森田　義之

（五十音順）

【所員紹介】

池庄司　規江（いけしょうじ　のりえ）教育学部准教授
昭和四八年（一九七三）／筑波大学大学院地球科学研究科修了／博士（理学）／地誌学

・（共）宮﨑尚子・大島聖美・大島規江「島崎藤村『夜明け前』の国文学的一考察―乖離する表象としての青山半蔵―」（『茨城大学教育学部紀要（人文・社会科学、芸術）』、七一号、二〇二二年、一―一二頁）
・（共）大島規江・宮﨑尚子・大島聖美「島崎藤村『夜明け前』の地理学的一考察―近世頽落期における木曾の庄屋―」（『茨城大学教育学部紀要（人文・社会科学、芸術）』、七一号、二〇二二年、一三―二六頁）
・（共）大島聖美・大島規江・宮﨑尚子「島崎藤村『夜明け前』の心理学的一考察―藤村の家族関係と生涯―」（『茨城大学教育学部紀要（人文・社会科学、芸術）』、七一号、二〇二二年、一七九―一九一頁）
・（単）大島規江「ヨーロッパにおける地域言語―オランダのフリジア語を中心に―」（『茨城大学教育学部紀要（人文・社会科学、芸術）』、七一号、二〇二二年、二七―三八頁）
・（単）池庄司規江「地域言語と教育言語―オランダ・フリースラント州の初等教育における教育言語」『二〇二二年度日本地理学会秋季学術大会要旨集』、一〇二号、二〇二二年、五六頁）
・（単）池庄司規江「オランダ統治下のフォルモサ研究に関する覚書―台湾有史時代のはじまりに関する学際的研究に向けて―」（『茨城大学教育学部紀要（人文・社会科学、芸術）』、七二号、二〇二三年、九―二〇頁）

猪俣　紀子（いのまた　のりこ）人文社会科学部准教授
昭和五十一年（一九七六）／大阪府立大学 人間文化学研究科比較文化専攻博士後期課程退学／修士（学術）／マンガ

・「マンガとバンドデシネにおける笑いの違い」（『KOKO』, Eventhia Moreau, 二〇二二年、一二二―一二七頁）
・「世界のアニメ＆マンガに夢中」（『English Journal Online』、二〇二一年）
・「漫画この一年」（『東京新聞』、二〇二一年十二月二十三日）
・「フランスにおけるバンドデシネ研究史」（『ぴらんじ』、五〇号、二〇二二年、三四―四五頁）
・「漫画この一年」（『東京新聞』、二〇二二年十二月二十一日）

甲斐　教行（かい　のりゆき）教育学部教授
昭和三五年（一九六〇）／東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程単位取得満期退学／博士（文学）／西洋美術史

・「クリストーフォロ・マルチェッロ『運命について』とその典拠をめぐる考察」（単著、『五浦論叢』、二十八号、二〇二一年、二一―三八頁）
・「知られざる巨人――彫刻家フィリッポ・ドブリッラの世界」（単著、『CRONACA』、一七〇号、二〇二二年、八―九頁）
・*Appennino Giappone -Fotografie di Andrea Lippi*, a cura di Giovanni Breschi（共著, Firenze, Casalta, 2022, pp.6-7 [*Andrea Lippi, L'Appennino e il Giappone*]）
・ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第六巻（共監訳、中央公論美術出版、二〇二二年、三四七―四〇二頁〔「アカデミア・デル・ディセーニョ会員」〕）
・カルロ・デル・ブラーヴォ「ルイジ・サバテッリ」（単訳、『五浦論叢』、二十八号、二〇二一年、一二一―一三三頁）
・カルロ・デル・ブラーヴォ「王政復古期の美術」（単訳、『五浦論叢』、二十八号、二〇二一年、一三五―一五五頁）
・カルロ・デル・ブラーヴォ「一八六〇年」（単訳、『五浦論叢』、二十九号、二〇二二年、二九七―三二九頁）
・書評：百合草真理子著『コレッジョの天井画　北イタリアにおけるルネサン

ス美術と宗教改革』（単著、『図書新聞』三五四八号、二〇二二年六月二十五日、第五面）
・図書贈呈式スピーチ：A. Falaschi (ed.), *Limbroglio di carta/ The paper cheat*, Bientina (PI) 2021（二〇二二年九月二日、於 San Miniato [PI], Biblioteca Mario Luzi）
・展覧会除幕式スピーチ：*Appennino Giappone -Fotografie di Andrea Lippi*, a cura di Giovanni Breschi（二〇二二年九月七日、於 Firenze, Biblioteca delle Oblate, Sala Conferenze Sibilla Aleramo）
・学術会議講演：Cercava la bellezza in ogni sua forma; Giornata di Studi in memoria di Carlo Del Bravo, a cura di Lorenzo Gnocchi (*Carlo Del Bravo e un allievo fra ricerca e insegnamento*; 二〇二二年十月七日、於 San Casciano in Val di Pesa [FI], Biblioteca, Sala Conferenza)

片口　直樹（かたぐち　なおき）　所長・教育学部准教授
昭和五三年（一九七八）／金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科修了／修士（芸術学）／絵画
・『美術 表現と鑑賞―想いを形に―』（共著、開隆堂出版、二〇二一年）
・『令和三年度版 中学校美術教科書 美術1』（共著、開隆堂出版、二〇二一年）
・『令和三年度版 中学校美術教科書 美術2・3』（共著、開隆堂出版、二〇二一年）
・「美術教師としての意識の萌芽―教科教育授業における画家としての教科専門教員およびその絵画作品との関わり―」（共著『美術教育の理論と実践第2巻』、学術研究出版、二〇二二年、一二九―一四四頁）
・「My Muscari」（個展『いのち』、常陽藝文センター藝文プラザ、二〇二二年）
・「つるぼ」（展覧会『明日をひらく絵画 第四〇回上野の森美術館大賞展』、上野の森美術館、二〇二二年）

神田　大吾（かんだ　だいご）　人文社会科学部准教授
昭和三三年（一九五八）／東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学／修士（文学）／フランス文学

小林　英美（こばやし　ひでみ）　教育学部教授
昭和四二年（一九六七）／早稲田大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学／博士（学術）／イギリス文学
・『多次元のトピカ』（共著、金星堂、二〇二一年、三八―五二頁）収録論文題目「公共図書館の起源―ノッティンガム・ブロムリー・ハウスの場合」
・「実写映画『ピーターラビット』による絵本の再創造とその受容―アダプテーションとトランスカルチュラルな展開」（『言語と文化』、三九号、明治学院大学言語文化研究所、二〇二二年、一七―二六頁）
・「詩想の共有―ビュルガーの「レノーレ」の英訳と定期刊行物」（『シェリング年報』、シェリング協会、三〇号、二〇二二年、一八―二八頁）

齋木　久美（さいき　くみ）　教育学部教授
昭和三八年（一九六三）／千葉大学大学院教育学研究科／教育学修士／書写書道教育
・「新旧小中学校学習指導要領国語科に関する記述内容の特色と教材化研究―教科教育と教科専門の融合的授業構築にむけて―」（共著、『茨城大学教育学部紀要（教育科学）』六七号、二〇一七年、一―一八頁）
・「幼児と文字」（『保育内容研究と指導法の実践的課題』（茨城大学教育学部幼児教育実践研究会編）、二〇一八年、四三―四六頁）
・「幼児への書字支援における姿勢（立腰）指導」（『茨城大学教育学部紀要（教育科学）』六八号、二〇一八年、四四三―四五四頁）
・「四季の歌（仮名）」（二〇一七中日書法作品交流展出品、日中友好会館）
・「和歌二首（仮名）」（第十五回韓日中文化人書藝展出品、首爾特別市韓国美

術館二室、二〇一八年）

佐々木　啓（ささき　けい）人文社会科学部准教授
昭和五三年（一九七八）／早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程退学／博士（文学）／日本近現代史
・「生きる術としての示威行動――飢餓突破川崎市労働者市民大会にみる戦時と戦後」（大門正克・長谷川貴彦編『「生きること」の問い方――歴史の現場から』日本経済評論社、二〇二二年、二一二―二五〇頁）
・「書評　西成田豊著『日本の近代化と民衆意識の変容――機械工の情念と行動』」（『民衆史研究』、一〇二号、六三―七〇頁）
・「日本帝国軍の兵站と「人的資源」」（蘭信三・石原俊・一ノ瀬俊也・佐藤文香編『シリーズ　戦争と社会　第三巻　総力戦・帝国崩壊・占領』岩波書店、二〇二二年、二七―五〇頁）
・「戦後農山村地域における新生活運動の展開――一九五〇～六〇年代の山方町諸沢地区を中心に」（『常陸大宮市史研究』、五号、二〇二二年、一―一七頁）
・「戦時下の社会変容――抑圧か平準化か」（岩城卓二・上島享・河西秀哉・塩出浩之・谷川穣・告井幸男編『論点・日本史学』、ミネルヴァ書房、二〇二二年、三一八―三一九頁）

佐藤　環（さとう　たまき）教育学部教授
昭和三五年（一九六〇）／広島大学大学院教育学研究科博士課程後期単位取得満期退学／修士（教育学）／日本教育史・学校教育
・『資料とアクティブラーニングで学ぶ初等・幼児教育の原理』（監修、萌文書林、二〇二二年）
・『新たな時代の学校教育を考える』（共著、青簡舎、二〇二三年）
・「幼児の季節感を醸成する保育―幼稚園教育要領における「環境」領域を中心として―」（『茨城大学全学教職センター研究報告』二〇二一年度版、二〇二二年、一―一一頁）
・「食事により育まれる食文化と人間関係―家庭と学校における幼児期の食事―」（『茨城大学全学教職センター研究報告』二〇二一年度版、二〇二一年、一三―二四頁）
・「幼児期における言葉の発達―絵本の読み聞かせに関する一考察―」（『茨城大学全学教職センター研究報告』二〇二一年度版、二〇二一年、三九―五二頁）
・「エジプトにおける日本型特別活動定着に関する一考察―学校観の相克がもたらす影響を考慮して―」（『茨城大学教職実践研究』四〇号、二〇二一年、一四一―一五一頁）
・「茨城県における旧制商業学校の展開」（『茨城県近現代史研究』六号、二〇二二年、七八―九三頁）
・「小学校における外国人児童への日本語指導に関する研究―水戸市立小学校の教育実践に着目して―」（共著、『茨城大学全学教職センター研究報告』二〇二二年度版、二〇二二年、二六―三七頁）
・「幼稚園における茶会の教育効果に関する一考察」（共著、『茨城大学全学教職センター研究報告』二〇二二年度版、二〇二二年、三八―四九頁）
・「初等・中等学校における職業教育の展開―戦後学制改革までの職業指導に関する一考察―」（『茨城大学全学教職センター研究報告』二〇二二年度版、二〇二二年、六二―七二頁）
・「進路の多様性に対応する商業科教育と職業教育―茨城県の商業専門高等学校を中心として―」（『茨城大学全学教職センター研究報告』二〇二二年度版、二〇二二年、九五―一〇五頁）
・（『茨城大学全学教職センター研究報告』二〇二二年度版、二〇二二年、六二―七二頁）
・「【書評】佐々木陽子著『戦時下女学生の軍事教練　女子通信手と「身体の兵

士化」』（『週間読書人』三四七四号、二〇二三年、三頁）

澁谷　浩一（しぶや　こういち）　人文社会科学部教授
昭和三九年（一九六四）／北海道大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学／文学修士／中央ユーラシア史、露清関係史
・「十八世紀前半の清とジューンガルの講和交渉再論―交渉の形式と清側の交渉姿勢を中心に―」（茨城大学人文社会科学部紀要『人文コミュニケーション学論集』第七号、二〇二一年、八七―一〇七頁）

清水　恵美子（しみず　えみこ）　全学教育機構准教授
昭和三七年（一九六二）／お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了／博士（学術）／比較文学比較文化・美術史
・「岡倉天心と国際文化交流　討論」（『国際交流と日本―日本の自画像と国際認識を作った国際交流』、内外出版株式会社、二〇二一年、一一六―一二七頁）
・「岡倉天心消息の紹介（2）」（『江戸千家便覧　ひとゝき草』一三八号、江戸千家連合不白会、二〇二一年、二〇―二一頁）
・「岡倉天心消息の紹介（3）―森田思軒宛―」（『江戸千家便覧　ひとゝき草』一三九号、二〇二一年、二八―二九頁）
・「岡倉天心消息の紹介（4）―黒川真頼宛―」（『江戸千家便覧　ひとゝき草』一四〇号、二〇二二年、三〇―三一頁）
・「天心紀行（1）―旅に出る前に―」（『江戸千家便覧　ひとゝき草』一四二号、二〇二三年、四〇―四一頁）
・「岡倉兄弟が説いた『茶』の真髄」（『アートコレクターズ』一七〇号、生活の友社、二〇二三年、四二―四三頁）

添田　仁（そえだ　ひとし）　人文社会科学部教授
昭和五一年（一九七六）／神戸大学大学院文化学研究科（博士課程）修了／博士（学術）／歴史学（日本近世史）
・「抜荷」（青木歳幸ら編『洋学史研究事典』、思文閣出版、二〇二一年）
・「茨城における水損資料の保全活動―令和元年東日本台風への対応を中心に―」（共著、『歴史評論』八五八、二〇二一年、七九―八八頁）
・「学生が取り組む地域歴史遺産の保全と活用」（木部暢子編『地域文化の可能性』、勉誠出版、二〇二二年、九三―一一三頁）
・「小津久足の文事と徳川光圀―右文の時代の水戸藩―」（『五浦論叢』二九、二〇二二年、八八―一一六頁）
・『常陸大宮市史資料叢書1　近世1　上伊勢畑村御用留』（共編著、常陸大宮市教育委員会、二〇二三年）
・『旅人たちが観た水戸藩―旅日記・名所絵を読む―』（共編著、茨城大学人文社会科学部、二〇二三年）

高橋　修（たかはし　おさむ）人文社会科学部教授
昭和三九年（一九六四）／神戸大学大学院文化学研究科博士後期課程中退／博士（文学）／歴史学（日本中世史）
・「内海世界の将門と貞盛」（『地方史研究』四一三、二〇二一、四―一三頁）
・『戦う茂木一族中世を生き抜いた東国武士』（編著、高志書院、二〇二二年、全二四三頁、七―二七頁執筆）
・『常陸大宮市史』資料編二古代・中世（共著、常陸大宮市史編さん委員会、全八五七頁）

田中　裕（たなか　ゆたか）人文社会科学部教授
昭和四三年（一九六八）／筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科（退学）／博士（文学）／考古学・博物館論・文化財論

・『古代国家形成期の社会と交通』（同成社、二〇一三年）。
・『常陸国「建評」前後の古墳研究』（茨城大学人文社会科学部考古学研究室、二〇一三年）。
・『柏市史　沼南通史　通史編』（柏市、二〇一三年）。
・「古代の鈴と鈴飾りの歴史的意義」『金鈴塚古墳と古墳時代社会の終焉』（六一書房、二〇一二年）。
・「房総の後期前方後円墳からみた首長権と金鈴塚古墳」『金鈴塚古墳と古墳時代社会の終焉』（六一書房、二〇一二年）。

千葉　真由美（ちば　まゆみ）教育学部教授
昭和四六年（一九七一）／東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科単位取得満期退学／博士（学術）／歴史学（日本近世史、村落史）
・「歴史教育における数学的知識の活用２―制作要具を使用した検地の実践から―」（単著、『茨城大学教育実践研究』第４０号、二〇二一年、一―一三頁）
・「総合的な学習の時間における昔話の活用―教科を横断した総合的な学習の時間の実現にむけて―」（共著、『茨城大学教育学部紀要（教育科学）』第七一号、二〇二二年、四七―五九頁）
・「江戸の百姓と印」（単著、『日本歴史』第八八四号、二〇二二年、五八―六五頁）
・「近世多摩地域の百姓と江戸出府」（単著、『町田市立自由民権資料館紀要』第三五号、二〇二二年、六四―七九頁）
・「女性の役割―子育てと介護は女性の役割か―」（単著、岩城卓二ほか編『論点・日本史学』、ミネルヴァ書房、二〇二二年、二〇八―二〇九頁）
・「江戸の公事宿と村―下総屋文蔵と下総国豊田郡加養村稲葉家の事例から―」（単著、『茨城大学教育学部紀要（人文・社会科学、芸術）』第七二号、二〇二三年、一―八頁）

西野　由希子（にしの　ゆきこ）人文社会科学部教授、地球・地域環境共創機構（GLEC）人間・社会経済部門長
昭和四〇年（一九六五）／お茶の水女子大学大学院博士課程（単位取得退学）／修士（文学）／中国文学・香港文学、地域研究
・「大学との連携による常陸大宮市の「森を活かしたまちづくり」（『建築とまちづくり』二〇二一年四月号、新建築家技術者集団、二〇二一年四月、二八―三一頁）
・「中国で制作される「連続ドラマ」―『陳情令』と「古装劇」」（『茨城大学人文社会科学部紀要　人文社会科学論集』、茨城大学人文社会科学部、二〇二三年二月、六三―七四頁）
・「香港作家・也斯の「対話」による創作活動」（『文学の力、語りの挑戦　中国現代文学論集』、宮尾正樹教授退休記念論集刊行会、東方書店、二〇二一年三月、二四九―二六九頁）
・「茨城大学―日立製作所連携プロジェクト　地域デザイン」、特色研究加速イニシアティブ、二〇二一―二〇二二年）
・茨城県公益認定等審議会委員
・茨城文学賞選考委員
・つくば市Ｒ８地域会議アドバイザー
・常陸大宮市市史編さん審議会副会長

藤原　貞朗（ふじはら　さだお）副所長・人文社会科学部教授
昭和四二年（一九六七）／大阪大学大学院文学研究科博士課程退学／修士（文学）／美学・美術史
・『共和国の美術　フランス美術史編纂と保守／学芸員の時代』（名古屋大学出版会、二〇二三年二月）
・（共同編集）ジャポニスム学会編（高木陽子・村井則子・高馬京子・藤原貞朗編集）『ジャポニスムを考える　日本文化表象をめぐる他者と自己』（思文

閣出版、二〇二二年四月）

・「バンテアイスレイ事件から『想像の美術館』へ　アジア考古学史のなかのアンドレ・マルロー」（永井敦子ほか編『アンドレ・マルローと現代　ポストヒューマニズム時代の〈希望〉の再生』、上智大学出版、二〇二一年、一一八―一三八頁）

・「ジャン・カリエスと芸術的な炻器の誕生」（『ふらんす』、白水社、二〇二一年一一月、一五―一九頁）

・「陶芸と『放浪の画家』のイメージ」（山下浩監修、『山下清　別冊太陽日本のこころ291』、平凡社、二〇二一年、一〇八―一一三頁）

・「『幻想の中世』と近代の日仏文化交流　中世美術史家と東洋学者のネットワーク」（『日仏文化』九一号、日仏会館、二〇二二年三月、六九―七九頁）

・「戦後の三つのキャッチフレーズからみる山下清の再評価」（『生誕百年山下清展　百年目の大回想』、展覧会カタログ、ＳＯＭＰＯ美術館など、二〇二二年三月、二〇〇―二〇四頁）

・「ルネ・ユイグと共和国の美術史編纂　モダニズム終焉の認識とネオ・ユマニスム」（『日仏美術学会会報』第四一号、日仏美術学会、二〇二二年発行、九二頁）

・FUJIHARA Sadao, «De l'Affaire Banteay Srei au Musée imaginaire. André Malraux dans le contexte de l'archéologie asiatique entre les deux guerres», in HATA (Ayako), NAGAÏ (Atsuko), YOSHIMURA (Kazuaki), YOSHIZAWA (Hideki) (dir.), *Malraux vu du Japon. Roman, essai et arts*, Edition Classiques Garnier, Paris, pp. 81-97.

・「五浦美術文化研究所の創設と草創期の活動をめぐって」、『五浦論叢』二十九号、茨城大学五浦美術文化研究所、二〇二二年。

・FUJIHARA Sadao, "Book Review: Michael Falser. *Angkor Wat: A Transcultural History of Heritage, Volume 1, Angkor in France; Angkor Wat: A Transcultural History of Heritage, Volume 2 Angkor in Cambodia.*, Boston: De Gruyter Art & Architecture, 2019", *Southeast Asian Studies*, Vol. 12, No. 1, April 2023, pp. 206-210.

・（講演）「二〇世紀アンコール遺跡の考古学とフランス東洋学者」（広州美術大学、二〇二二年九月二四日、オンライン）

・（講演）「二〇世紀アンコール遺跡の考古学とフランス東洋学者（二）」（北京中央美術研究所、二〇二二年十月二二日、オンライン）

・（司会とコーディネーター）ジャポニスム学会国際シンポジウム「ジャポニスムと東洋思想」（ジャポニスム学会、オンライン、二〇二一年一一月四日）

・（司会とコーディネーター）ジャポニスム学会国際シンポジウム「デザインとジャポニスム」（ジャポニスム学会、オンライン、二〇二二年一一月一二日）

・「新訂増補版後記」（森田義之・小泉晋弥編『新訂増補　岡倉天心と五浦』、中央公論美術出版、二〇二一年、三一三―三一四頁）

・「昔の六角堂とこれからの研究所」（『てんしん』第二二号、五浦日本美術院岡倉天心偉績顕彰会、二〇二二年、一頁）

・「ワークショップ趣旨説明　一九三〇年周辺のポストモダンとネオ・ユマニスムの文芸史観」（『日仏美術学会会報』第四一号、日仏美術学会、二〇二二年発行、九一頁）

堀口　育男（ほりぐち　いくお）人文社会科学部教授

昭和三六年（一九六一）／東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学／文学修士／日本古典文学

・『『鍼盲録』註解―齋藤竹堂の常陸・房總紀行―』（太平書屋、令和三年七月）

・『墨水四時雑詠＊註解』（共著）（太平書屋、令和三年九月）

・『甘溪百絶』（愛静書屋、令和三年十一月）

【客員所員紹介】

網谷　厚子（あみたに　あつこ）沖縄工業高等専門学校名誉教授

昭和二九年（一九五四）／お茶の水女子大学大学院人間研究科（博士課程）単位取得満期退学／文学修士／中古文学、国語教育、韻文学

・『万籟』（思潮社、二〇二一年）　二〇二二年茨城新聞社賞受賞

・「日本語の多様な表記・表現」（『白亜紀』第一六一号、二〇二一年、二二～二五頁）

・「日本語の音」（『白亜紀』第一六三号、二〇二二年、二二～二五頁、四四～四七頁）

・「〈声〉の詩」（『白亜紀』第一六四号、二〇二二年、二二～二五頁）

・「〈口承〉という豊饒の海」（『白亜紀』第一六二号、二〇二二年、二二～二五頁）

・「女流詩人の草分け―英美子の詩について」（『茨城文学』第四八号、二〇二一年、二五～三〇頁）

・「〈触覚〉を刺激する―大岡信「さわる」」（『万河・Banga』第二八号、二〇二二年、二二～二三頁）

金子　一夫（かねこ　かずお）茨城大学教育学部名誉教授

昭和二五年（一九五〇）／東京藝術大学大学院美術研究科修了（美術教育学専攻）／博士／美術教育学

・「贈与交換システム論的美術教育学の交換と教材の層的構造―言語記号論的・時間論的考察―」（『美術教育学』、第四十三号、二〇二二年、八五―九六頁）

・「子どもの論理による美術教育思想の研究　1―長期連載・西野範夫『子どもがつくる学校と教育』の検討―」（『美術教育学研究』、第五十四号、二〇二二年、七三―八〇頁）

・「（有田洋子との共著）絵本の美術的本質と美術教育的意義としての場面転換」（『美術教育学研究』、第五十四号、二〇二二年、九―一六頁）

・「安岡信義と近代日本中等学校美術教育―東京美術学校図画師範科と富山県美術教育を中心に―」友岡真秀編『安岡信義１８８８―１９３３―近代洋画の黎明期を生きた画家』鳥取県立博物館、二〇二三年、九―一五頁。

・「贈与交換システム論的美術教育学における純粋贈与―純粋贈与と無・無意識・自己表出―」（『美術教育学』、第四十四号、二〇二三年、一一三―一二四頁）

・「子どもの論理による美術教育思想の研究　2―西野範夫の教科調査官就任前の美術教育思想―」（『美術教育学研究』、第五十五号、二〇二三年、八一―八八頁）

小泉　晋弥（こいずみ　しんや）茨城県天心記念五浦美術館館長

昭和二八年（一九五三）／東京藝術大学大学院美術研究科修了／修士（美術教育学）／近現代美術史・博物館学

・「足跡」「飯村丈三郎の美術理解と岡倉天心の美学」（『茨城近代化の父 飯村丈三郎の生涯』茨城新聞社、二〇二一年、四〇～四五頁、四八～五三頁、五六～五七頁、六〇～六一頁、七〇～七一頁、一〇五～一〇八頁）

・「高田啓二郎２０２１」（『高田啓二郎画文集Ｋの劇場』求龍堂、二〇二一年、一九〇～一九五頁）

・「伊藤公象のインスタレーションの思想」（『ITO Kohsho　伊藤公象作品集』ときのわすれもの、二〇二二年、一二五～一四四頁）

・「齋藤隆三と飯村丈三郎と五浦日本美術院――明治の夢の織物」（『日本美術院の立役者　齋藤隆三展』茨城県天心記念五浦美術館、二〇二二年、一一七―一二二頁）

・「寄興雲烟――いつでも、どんなところでも　山本正道《追憶》をめぐる断章」（『東京藝大芸術学科　同窓随想集　a-can-thus アカンサス』第一号、

二〇二二年、三〇〜三九頁）

後藤　道雄（ごとう　みちお）美術史学会
昭和八年（一九三三）／國学院大学文学部史学科中退／仏教美術史
・『茨城彫刻史研究』（中央公論美術出版、二〇二二）
・「常陸の仏像」（『国華』一三二六号、国華社、二〇〇六年）
・国際日本文化研究センター共同研究「差別から見た日本宗教史再考」研究発表（二〇一八年十一月十七日）
・「律宗と親鸞系諸門流の聖徳太子信仰」（吉田一彦と共著）（磯前純一他編『差別と宗教の日本史』法蔵館、二〇二一）

佐々木　寛司（ささき　ひろし）茨城大学名誉教授
昭和二四年（一九四九）／学習院大学大学院博士課程満期退学／文学博士（九州大学）／日本近代史
・「戦後思想史のなかの歴史学」（『明治維新史研究』第二一号、二〇二二年五月）
・『和光市史　平成版』監修、和光市、二〇二三年三月）

佐藤　道信（さとう　どうしん）東京藝術大学美術学部教授
昭和三一年（一九五六）／東北大学文学部大学院修士課程／修士／近代日本美術史
・『〈日本美術〉誕生 近代日本の「ことば」と戦略』（復刻）（ちくま学芸文庫、筑摩書房、二〇二一年）
・「平成の日本美術院―〝悠久〟のゆくえ」（『平成の日本画 一九八九―二〇一九 日本画と水墨画三十年の軌跡』美術年鑑社、二〇二二年、十五〜十八頁）
・「明治彫刻史の中の長沼守敬」（『近代彫刻の先駆者長沼守敬―史料と研究』、中央公論美術出版、二〇二二年、六四一〜六五二頁）
・「東京美術学校の美術教育―作家養成か教員養成か」（『近代洋画の黎明期を生きた画家 安岡信義 一八八八―一九三三』展図録、鳥取県立博物館、二〇二三年二月、六〜八頁）

菅谷　務（すがや　つとむ）
昭和二五年（一九五〇）／明治大学大学院政治経済学研究科博士課程単位取得退学／政治学修士／日本政治思想史
・「橋川文三の「死に損いの原理」と「歴史意識」の形成について―Y・パトチカの「前線」、E・レヴィナスの「顔」との比較において―（上）」（『五浦論叢』（茨城大学五浦美術文化研究所紀要）二八号、二〇二一年）
・「橋川文三の「死に損いの原理」と「歴史意識」の形成について―Y・パトチカの「前線」、E・レヴィナスの「顔」との比較において―（下）」（同右、二九号、二〇二二年）
・「歴史認識と「死者」のことば（その一）―太平洋戦争における戦没学徒の「居場所」とそこからの「声」をめぐって―」（『歴史文化研究（茨城）』第九号、歴史文化研究会、二〇二二年七月）

鈴木　暎一（すずき　えいいち）茨城大学名誉教授
昭和一四年（一九三九）／東京大学大学院人文科学研究科修士課程国史学専攻修了／文学博士／日本近世史
・「「往復書案」にみる塙保己一とその周辺―『大日本史』編纂過程の一面―」（『茨城史林』四五号、二〇二一年六月）
・「徳川光圀と遣迎院応空補遺」（『茨城史林』四六号、二〇二二年六月）

鶴間　和幸（つるま　かずゆき）学習院大学大学文学部教授
昭和二五年（一九五〇）／東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得

退学／博士（文学）／中国古代史
・『始皇帝の地下宮殿～隠された埋蔵品の真相～』（山川出版社、二〇二一年）
・『新説始皇帝学』（カンゼン、二〇二二年）
・『始皇帝の愛読書～帝王を支えた書物の変遷～』（山川出版社、二〇二三年）
・「秦漢人物史研究と『風俗通義』姓氏篇」（『東方学』一四三、二〇二二年、一―二五頁）
・「始皇帝の時代の名もなき人々」（『日本秦漢史研究』第二三号、二〇二三年、九六―一二九頁）

中村　愿（なかむら　すなお）蘭花堂主人
昭和二二年（一九四七）／小倉工業高校／中国古代史・文学・日本近代美術史
・『三国志逍遥』（山川出版社、二〇一〇年）
・『魯迅の言葉』（監訳、平凡社、二〇一一年）
・『史記と日本人』（共著、平凡社、二〇一一年）
・『岡倉天心アルバム』（改訂版、中央公論美術出版、二〇一三年）
・『狩野芳崖　受胎観音への軌跡』（山川出版社、二〇一三年）
・「私の夢十夜」（前後篇）平凡社『こころ』二四・二五号（二〇一五年）筆名・尾鷲卓彦
・「ドレイ日記」平凡社『こころ』三三号（二〇一六年）筆名・尾鷲卓彦
・「秘母観音の女・初子と覚三」『天心報、第一六号』（二〇一七年・講演記録）

深澤　安博（ふかざわ　やすひろ）茨城大学名誉教授
昭和二四年（一九四九）／東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程単位修得退学／文学修士／ヨーロッパ現代史
・「帝国主義（植民地戦争）」（『社会経済史学事典』丸善出版、二〇二一年、五七八―五七九頁）
・「第42回大会参加記」（『スペイン史学会会報』第一二七号、二〇二二年、二三―二五頁）

藤本　陽子（ふじもと　ようこ）
昭和二三年（一九四八）／國學院大学文学部史学科／日本近代美術史
・「茨城県近代美術館―日本画コレクションの形成」（『美連協二五周年記念日本の美術館名品展図録』、美術館連絡協議会、二〇一〇年）
・「横山大観　生々流転」（『國華一四〇〇号記念号』國華社、二〇一二年）

森田　義之（もりた　よしゆき）愛知県立芸術大学名誉教授
昭和二三年（一九四八）／東京藝術大学大学院美術研究科修了（西洋美術史専攻）／芸術学修士／イタリア中世近世美術史
・ジョルジョ．ヴァザーリ『美術家列伝』第二巻（共同監修）、中央公論美術出版。「アントネッロ・ダ・メッシーナ伝」、「ドナテッロ伝」「ボッティチェッリ伝」「フィリッポ・リッピ伝」「ギルランダイオ伝」他、14伝記を担当。
・ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第六巻（共同監修）、中央公論美術出版。「ミケランジェロ伝」「ヴァザーリ自伝」の翻訳、及び解説論文「ジョルジョ・ヴァザーリとその『美術家列伝』」を担当。